

平成26年9月定例会 人材育成・文化・スポーツ振興特別委員会
＝井上の発言抜粋＝

日時 平成26年10月8日(水) 開会 午前10時3分
閉会 午前11時22分
場所 第1委員会室

○会議に付した事件

文化の振興について

井上委員

1 県文化芸術振興計画で指標を定めているが、進捗状況はどうなっているのか。また、目標を達成していない場合、どのように努力していくのか。

2 当委員会で三重県総合博物館を視察したが、同館は自然を通して歴史を学ぶなど、いろいろなものを一緒に見せるという展示が非常に売りになっているという感じがあった。埼玉県の場合は6館にそれぞれに分けてというのも特徴だと思うが、例えば、学校の出前授業で複数の博物館から同時に借りてきて、より多くの学びを児童生徒に提供するなどのコラボレーションもあってよいと考えるが、こうした取組の状況、今後の取組についてはいかがか。

文化振興課長

1 計画においては、基本指標及び4つの施策指標を定めている。
基本指標については、「鑑賞や参加の機会など文化芸術環境に満足している県民の割合」となっており、目標値を3人に2人となる65%としている。計画策定時には52.4%であったが、平成25年度には54.1%となっている。
施策指標Ⅰについては、「文化芸術活動を行っている県民の割合」となっており、目標値を40.0%としている。計画策定時には27.4%であったが、平成25年度には30.6%となっている。身近な文化活動の振興に努めていきたい。
施策指標Ⅱについては、「公立文化施設の利用者数」となっており、目標値を1,560万人としている。計画策定時には1,417万人であったが、平成25年度には1,482万人となっている。あまり伸びていないが、文化施設の休館等の影響によるものと思われる。
施策指標Ⅲについては、「未利用施設等を活用した新たな文化芸術拠点数」となっており、目標値を20か所としている。平成25年度には10か所を整備している

が、県の助成事業による実績であり、国等の助成事業による整備もあると思われる。施策指標Ⅳについては、「指定無形民俗文化財（民俗芸能）の保存継承団体数」となっており、目標値を現状維持としている。計画策定時には316団体であったが、平成25年度には349団体となっている。伝統芸能については、一度失われると復活が困難であるため、継承に努力していきたい。

生涯学習文化財課長

2 埼玉県は、いわゆる専門分野を明確にした構成になっている。ここで一気にどこかに集約できるかという、なかなか難しい状況にあると思っている。ただ、委員お話しの出前授業でコラボして何かもう少し工夫した取組ができないか、あるいは展示で何か協働してできないかというような趣旨については、博物館の総合調整の機能を歴史と民俗の博物館が担っており、この調整会議の中で、各館の展示や企画を話し合っている。現在のところ、委員お話しのような取組は残念ながらされていないが、どんな取組が可能なのか、今後検討していきたい。

井上委員

文化芸術環境に満足している県民の割合については、平成24年度から減少している。公立文化施設の利用者数についても、増加が少ない。目標に近づくことが県の文化振興につながるので、決意を伺いたい。

文化振興課長

目標達成に向けて、県全体で取り組む必要があると考えている。市町村とも協力し、努力していきたい。

以上